付 録 E net scan 法の開発

net scan 法は DONUT の SFT での飛跡の空間再構成ができない反応に対して、開発した手法である。そのために飛跡読み取り装置の高速化は不可欠であった。現在開発、発展中の技術である。近く野中氏の学位論文でまとめられる予定である。以下は基本の枠組みの立ち上げに関する略年表である。

1997年	9月	丹羽の提案で net scan 法の開発開始
net scan の前段階 (ポイントスキャンとの組み合わせ方式) の開始
オンライン測定を中野 (NTS)
オフライン処理を野中、青木が担当
1998年	10月	全面データ取り方式に変更
マイクロトラックの再構成を青木が担当
1999年	2月	UTS が完成 (中野) 角度 0.4rad までが対象となる。
	4月	net scan データ解析プログラムを小松が担当
アラインメントのトラブルの原因を岡田が解析
	10月	CHORUS への導入開始。データ管理を児玉が担当
2000年	1月	net scan データのクオリティチェック体制を野中が確立